

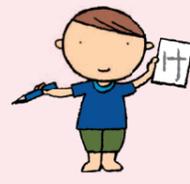
非認知能力ってなに？

非認知能力



IQでは測れない、コミュニケーション力や感情をコントロールするなどの内面的な能力

認知能力



数字が分かる字が書けるなど、IQなどで測れる能力

非認知能力は「学校の成績や職場の成果」に影響を与える

非認知能力は認知能力である学力に影響を与え、さらには職場での成果にも影響を与えるとされています。そして、世界的な研究者も次のような教訓を提示しています。

子どもにより変化をもたらすのはIQではなく、社会的スキルと動機づけである。
 社会的スキルと感情コントロールスキルは、学校での成績にも職場での成果にも影響する。
 IQや記憶力などの認知的スキルだけが人の成功を決めるとするのは、あまりにも偏った考え方である。
 by ジェイムズ・J・ヘックマン博士 ノーベル経済学賞受賞 (2000年)

【出展 「幼児教育の経済学」 2015 東京経済新聞社】

非認知能力は脳の発達に関連する

脳は、乳幼児期に愛着などの基本は育ちますが、10歳ごろまで伸び続け、20代後半ごろまで発達すると言われています。
 脳を萎縮させず、安定して発達させることが大切です。



このような親の対応が脳に悪影響を与える可能性がある

子育てに体罰や暴言を使う

「愛のムチである」と親が思っても、子どもは暴力や暴言による恐怖で行動するだけです。自分で考えた行動ではありません。



親に恐怖を感じている

親に気に入られるように、親の顔色を見て行動するようになり、心配事やSOSを伝えられなくなります。



子どもにイライラをぶつける

育児の負担を一人で抱え込むなどのストレスから、子どものちょっとした言動で子どもに当たってしまう。



指示的に対応する

2、3歳の子どもの「イヤ」は自我の芽生えであり成長の証です。「わがままな子になっては困る」という思いから、親は指示的に対応してしまいがちです。



幼い時から 育みたい力

みなさんは、子どもをどのように関わっていますでしょうか。「熱心に教育する」「子どもの意思に任せている」など家庭によって教育方針はさまざまではありますが、いずれにしても「人として生きていく力」を育むという考えが根幹にあるのではないのでしょうか。

子どもの成長過程において必要とされる能力の一つに「非認知能力」というものがあります。これは「回復力」や「やり抜く力」のことで、この能力が高いと、「健全・有能な人間に成長する可能性が高い」と言われています。

一方で、親からの厳しい体罰は子どもの脳の発達に深刻な影響を及ぼすと言われています。今年4月から施行される「改正児童虐待防止法」などには「親がしつけに際しての体罰を加えてはならない」ということが明文化され、体罰のない子どもの権利が守られる社会の実現を目指しています。

今号では、非認知能力の育み方などを、専門家などの意見を通じて紹介します。



我が家の心がけ

市内にお住まいの子育て中の2家族に、子育てで心がけていることについてお話を聞きました。

岡さんご一家



夫婦で連携

徹底して教えていることは『「ごめんなさい」「ありがとう」は必ず言うこと』です。子どもに言うからには、親自身もちょっとしたことで

も「ありがとう」、言い過ぎた時は「言い過ぎたね。ごめんね」と言うようにしています。
なるべく、怒らず褒めるように心がけてはいますが、つい、言い過ぎてしまう時もあります。1人が怒っている時は1人が静観して、後で子どもにフォローができるように、自然にですが、夫婦で役割分担しています。
子どもには、人にやさしく、たくましく、そして人と人とのつながりを大切にできる子に育ててほしいと思っ

藤崎さんご一家



褒める数を多く

心がけているのは「やさしく言う」です。きつい言い方をしてしまうと、子どももお友達などに同じような言い方をしてしまうことがわ

かったので気を付けています。
また、怒るよりも褒める数を増やすことを意識しています。例えば「ドアを閉めなかったら怒る」のではなく、「ドアを閉めた時にほめる」など。褒められる方が、子どもが自らやってくれるようになります。
でも、いつも優しくできるわけじゃないので、叱る時は、お互いが少し落ち着いてから「ごめんね」を言ったり、冷静に話をしたりするようにしています。子どもも親も、“冷静になる時間”が大切だと思います。

子育てに悩んだら相談しましょう

家庭児童相談課

0歳～18歳の子どもと家族のさまざまな相談に、専門家が応じる機関です。
問合せ 06 (6155) 6302 へ

地域子育て支援センター

就学前の子どもと保護者が自由に交流し、子育て情報の交換や提供など、広く子育て支援を行う機関です。
問合せ 072 (631) 9676 へ

こどものころを元気に育てよう

理学療法士から、子どもの発達を促す遊びのポイントを学ぶことができます。

日時 2月17日(月)午前10時～11時半

場所 コミュニティプラザ・会議室

対象 乳幼児の保護者

申込み 地域子育て支援センター ☎ 072 (631) 9676 へ

※一時保育あり (定員20人・要予約)

【スタッフの声】

Pamojaでは、子どもとの接し方や発達が気になる子どもの親を対象としたセミナーのほか、電話相談も行っています。

相談では、親子の普段の接し方を聞いて、親子に合った関わり方を一緒に考えています。

子育てをサポートするプログラムはたくさんありますので、どんな小さなことでも、悩んでいることがあれば、お気軽にお電話ください。



△ Pamoja のメンバー

子育て支援グループによる相談 子育て支援 [Pamoja] (パモジャ)

●子育てカフェ

子育てに関する相談や専門的な情報を提供。
日時 毎月第1水曜日午前10時～12時
場所 コミュニティプラザ
参加費 300円 (茶菓子代など)

その他の取り組み

●前向き子育てプログラム (トリプルP)

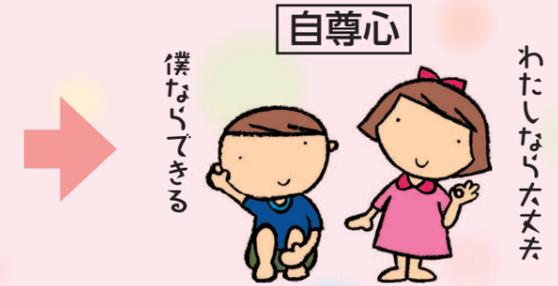
子育てのちょっとした方法やスキルを学ぶことができる連続講座です。

●親子広場

発達に気になる子どものための子育てプログラムです。
※各実施日などの詳細は子育て支援 [Pamoja] ☎ 080 (1528) 0872 へ

子どもとの関わり方で重要な事は？

非認知能力を構成するさまざまな要素の中でも注目しているのは自尊心。
「自分はだめだ・・・」と思ってしまうと、子どもは前向きに行動ができません。



子どもと良質な時間を過ごす

子どもに呼ばれたら、1分でも手を止めて子どもと向き合う。
手が離せない時はどれくらい待つのかを伝え、きちんと待てたらしっかりと褒める。

子どもを描写的に褒める

「さすがお兄ちゃんだね」など、子どもの人格を褒めるのではなく、行動を描写的に褒める。



専門家のひとこと

非認知能力とは
非認知能力とは、やり抜く力や自己コントロールなど人が生きていくために大切な能力のことです。学力などIQで計れるものとは異なりますが、学力とも無関係ではありません。非認知能力である「勤勉性」や「やり抜く力」を高めることができます。学力も上がっていきます。
非認知能力の中で特に注目してもらいたいのは「自尊心」です。「自分はだめだ」と思ってしまうと、困難にぶつかった時に、前向きに行動することができません。自尊心は、幼少期にしっかりと褒めてもらうことで育ちます。まずは家庭の中で、子どもとの関わり方を考えてみましょう。



金沢学院短期大学助教 (臨床心理士) 白山 真知子 氏

子どもと良質な時間を
関わり方で大切なのは、「良質な時間を過ごすこと」と「描写的にほめること」です。
子どもが「お母さん」「お父さん」と呼んだら、用事を全て止めて「なあに」と向き合うのが理想的です。でも、それができる時ばかりではありません。そんな時は「ちょっと待ってね」と伝え、用事が終われば、必ず「待っていてくれてありがとう」と向き合う時間を持つことが大切です。そして、褒める時には、「さすがお兄ちゃんね」と人格を褒めるのではなく、行動を具体的に褒めてあげてください。そうすれば、子どもは自分が何をすれば良いのが自然にわかってきます。
子育てを楽しむために
良質な時間を過ごすためには、お母さんやお父さん自身が自分を大切にすることも重要です。地域子育て支援センターや一時預かりなどを上手に活用し、お母さんやお父さんがほっとする時間を持ちながら、子育てを楽しんでください。